

学級活動指導案

日時 平成29年5月26日（金）第3校時
対象 2年2組（男子20名 女子20名 計40名）
指導者 教諭 川上 慎一郎

1 題材「学級目標を達成するための具体策を考えよう」

2 学習指導要領との関連

内容項目：(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

3 題材（テーマ）設定の理由

社会の情報化やグローバル化が急速に進展しており、2045年には、コンピュータの能力が人間の能力を上回るとの予測もある。今後は、人間が優位性を持つ資質・能力を磨き、高めることが、ますます必要になると言われている。この社会の変化は、若者や青少年の集団における人間関係にも影響を与え、顔を合わせた人間関係づくりを表面的にさせている面もある。その結果、集団内の人間関係の希薄さや未熟さにつながり、自己肯定感やコミュニケーション能力の低下を招いていると考えられる。このようなことから、性別・年齢・国籍を越え、多様な価値観をもった人と協働してチームで働く資質・能力の育成が重要となると考えられる。

そこで、生徒の自己肯定感を高め、社会性を育成する人間関係の築き方を学ばせる必要がある。そのために、学級活動を通して、一人一人の生徒が学級の中で望ましい人間関係を確立しようとする意欲を高めたい。さらに、学級をチームとして捉え、より機能的な集団にするために共通の目標である学級目標を立てさせることで、生徒たちを同じ方向に向かわせたい。そうすることで、互いに共感や親近感を抱き、集団における心的なつながりができ、人間関係が親密になると考えた。

本題材では、特別活動における資質・能力を育成するために「学びのプロセス」を重視した。なぜなら、年度当初に学級目標を決めたものの、その目標を達成するための方法が具体的にならなかったり、日常の学校生活において学級目標が達成されているかを振り返ることが十分ではなかったりすると考えられるからである。そこで、年度当初に設定する学級目標に焦点化し、その目標に向かって学校行事や各教科の学習を通して学級づくりを行うことにした。そして、目標を達成するための具体策を集団で決定して実践し、振り返る活動を繰り返し行わせることにした。

そこで指導に当たっては、学級目標を達成するために、今の課題に対する具体策を集団決定させ、実際に取り組みせ、振り返らせる。その上で、生じた問題点について「システム思考」を踏まえた「氷山モデル」を基にして、話し合い活動を通して根本的な解決方法を見いださせることにした。これにより、学級目標を達成するために取り組むべきことはどのようなことなのか構造的に捉えさせ、より効果的な具体策について集団決定を行わせることで、よりよい学級づくりを行いたいと考えた。

このように、学びのプロセスを通して、学級目標を達成するための問題を構造的に捉えさせたい。そして、様々な考えを基に、判断させ、実践させるといった創造的な学びを展開させたいと考え、「学

級目標を達成するための具体策を考えよう」というテーマを設定した。

4 題材（テーマ）における指導目標

- (1) よりよい学級の生活づくりに関心をもち、話し合い活動に自主的、自立的に参加しようとする態度を養う。
- (2) 学級の一員として、互いの意見を尊重しながら、よりよい学級集団について考え、判断し、理由を示して表現することができるようにする。
- (3) 充実した集団生活を築くことの意義や、学級の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解させる。

5 評価の視点と本実践における評価規準

生活や人間関係をよりよくするための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
充実した集団生活を築くことの意義や、学級の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。	学級の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考えて表現し、判断した上で、信頼し合って実践している。	学級における生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自立的に集団活動に取り組もうとしている。

6 ICEモデルを用いたルーブリック

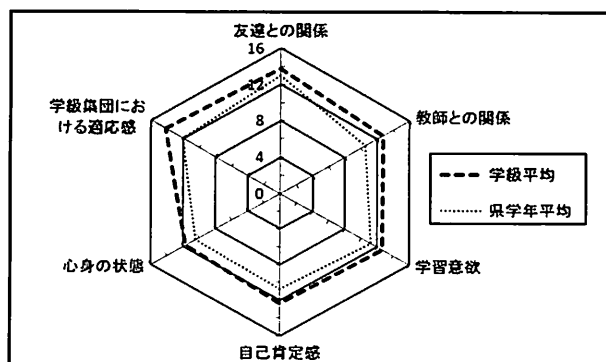
	Iを達成している段階	Cを達成している段階	Eを達成している段階
創造的に考える力や考えようとする態度	様々な立場や視点から、学級の課題を知り、話し合いの意義を見だし、相手の立場から意見を述べる段階。	学級の問題点を時間による変化や要因同士のつながりによりシステムの捉えた上で、より最適な具体策を見いだしている段階。	生徒会活動や学校行事等の時間や放課後等、日常の場面で問題点を系統的に捉え、新たな改善策を見いだしている段階。

7 生徒の実態

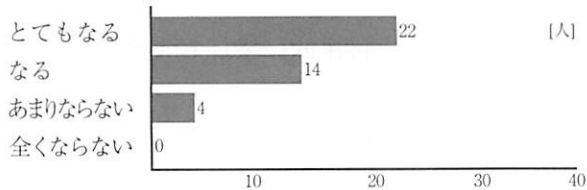
【事前アンケートの結果】（平成29年4月14日実施 対象：2年2組 計40名）

「学校楽しいーと」結果より

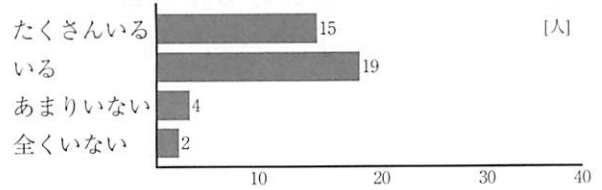
観点	学級平均	県学年平均
1 友達との関係	13.7	13.0
2 教師との関係	12.6	10.5
3 学習意欲	12.6	11.2
4 自己肯定感	12.3	10.7
5 心身の状態	11.7	10.5
6 学級集団における適応感	14.1	12.1



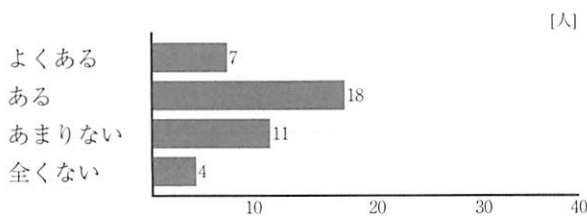
6-1 「学級の中にいると、明るく楽しい気持ちになる」(学級集団における適応感)



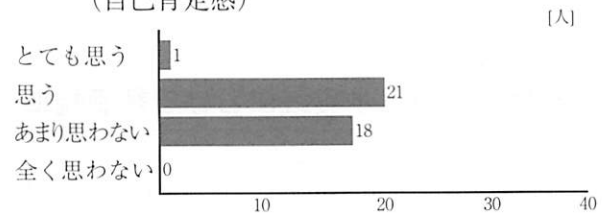
1-1 「学校には、自分の悩みや本当の気持ちを話せる友達がいる」(友達との関係)



5-1 「落ち込むことがある」(心身の状態)



4-1 「他人から好かれているほうだと思う」(自己肯定感)



【考察】

本学級の生徒は、全体的に明るく元気で、何事にも前向きに取り組むことができる。生徒の学校への適応感を客観的に把握するため、鹿児島県総合教育センターが作成した「楽しいーと」アンケートを活用した。その結果より、本学級は、6項目すべてにおいて鹿児島県の学年平均を上回っていることが分かる。しかしながら、他の項目と比較した場合、心身の状態(5-1)や自己肯定感(4-1)の数値がやや低いことから、これらについて学級へ手立てを講ずる必要があると考えられる。また、学級集団における適応感や友達との関係についても更によりよい学級集団づくりや人間関係づくりを行い、改善を図りたいと考える。

また、担任としてこの数か月過ごしてきて、朝のボランティア活動への参加人数が少なかったり、無言清掃の徹底ができなかったりする実態がある。その際、教師からの指導や助言があれば忠実に実行できるが、そうでない場合、自ら進んで行うことができない場面が見受けられる。また、4月当初の一人一役決めアンケートでは、19名(48%)の生徒が学級運営委員に立候補しており、学級をよりよくしようという意欲はあるものの、学校生活の様々な場面で行動として移せていないことが多い。

そこで、本時は、4月に学級の話合いで決定した「情熱をもち、何事にも果敢に挑戦する学級」という学級目標を基に、この「めざす姿」に近付くために学級の現状を振り返り、その問題点を見いだせたい。その上で、どのように改善していけばよいかについて、様々な立場や視点、時間軸の変化から考えさせ、つながりと全体像を構造的に捉えさせ、話し合い活動を充実させたい。そして、生徒自身に効率的かつ効果的で具体的な改善策を集団決定させ、その後の学級づくりにつなげたい。

8 展開の過程（※は研究の重点に対応している）

(1) 事前の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動内容	指導上の留意点	めざす生徒の姿
4/14	MT 全員	「楽しいーと」アンケートに回答する。	進級したばかりの今の自分の思いを真剣に振り返らせる。	学級での生活に関わる自分の思いや様子を真剣に振り返っている。
4/19	放課後 学級運営委員	事前アンケートを集約し、学級目標案を作成する。	アンケートの集計を行い、クラスの実態を把握させる。学級目標とモットー（三つの行動目標）の案を考えさせる。	アンケート結果からクラスの実態を把握する。
4/21	学級活動① 全員	学級目標及びモットー（三つの行動目標）を決定する。	学級運営委員が作成した学級目標案を基に、グループで話し合わせ、集団決定を行わせる。また、話し合いで決まった三つの行動目標を表すモットーを考えさせる。行動目標は、「自己実現」「人間関係形成」「社会参画」の視点から話し合わせ、策定させる。	よりよいクラスづくりをしようと真剣に考え、話し合い活動に意欲的に参加している。
5/19	MT 全員	「楽しいーと」アンケートに回答する。	進級から1か月後の今の自分とクラスを真剣に振り返らせる。	学級での生活に関わる自分の思いや様子を真剣に振り返っている。
5/23	学級活動② 全員	現状を振り返り、問題を発見し、課題を見つける。	アンケート結果から、個人及びクラスの現状を振り返らせ、各グループで話し合い活動を行い、目標達成を阻む問題を挙げて、ループ図を作成させる。 【※Ⅱ-1(2), Ⅱ-2(2)】	よりよいクラスづくりをしようと真剣に考え、話し合い活動に意欲的に参加し、ループ図に自分の考えをまとめようとしている。
5/24	放課後 学級運営委員	ループ図を一つに集約し、本時の進行について確認する。	個人で作成したループ図を、一つに集約させ、次の話し合い活動に向けた準備を行わせる。 【※Ⅱ-1(3)】	クラス全体の様子を把握し、個人から出された意見を集約し、的確にループ図にまとめている。

(2) 本時の指導と生徒の活動

ア 題材 「学級目標の達成に向けて、問題点を把握し、改善策を考えよう」

イ 本時のねらい

学級目標と照らし合わせながら、学級の実態を捉えた上で、話し合い活動を通して学級の問題点とその原因やつながりについて具体的に考え、改善策を決めることができる。

ウ 展開

過程	活動の内容	指導上の留意点	めざす生徒の姿
活動の開始 6分	1 前時の授業内容を振り返る。 2 学級運営委員がまとめたループ図を確認する。 3 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">学級の「めざす姿」に近づくための改善策を考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習で作成した悪循環のループ図を確認することによって、前時の学習内容を振り返らせる。 【※Ⅱ-1(1)】 ・ 学級運営委員会がまとめたループ図を運営委員から説明させることによって、学級の問題点を全体で共有させる。 	◎ 本時の話合いの意義を理解し、課題を見いだしている。
活動の展開 34分	4 ループ図の中で望ましい変化を起こすための改善ポイントを見つける。(個・全体) 5 どうすれば「めざす姿」に近づく好循環のループに変えていけるかを考える。(グループ・全体) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 【目標パターンの種類】 (1) 望ましいループをつくり出す。 (2) 望ましいループを強める。 (3) 望ましくないループを断つ。 (4) 望ましくないループを弱める。 (5) 構造は変えずに悪循環を好循環にひっくり返す。 </div> 6 改善策を話し合い、決定する。(グループ・全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題状況を引き起こしている構造をループ図で視覚化することによって、視座を高め、視野を広げ、問題の全体像を把握させる。 ・ 構造のどこにどう働きかければよいかを考えることによって、望ましい変化を起こすための最も効果的で効果的なポイントを見付けさせる。 ・ システム思考を用いることによって、問題と解決策が時間的にも空間的にも近くにあるとは限らないことを理解させる。 【※Ⅱ-1(3)】 ・ 学級運営委員と事前に打ち合わせを行うことによって、班での話合いの際、運営委員がリーダーとして、「ダブルループ」の視点から発言を促すことができるようにする。 ・ 教師は、生徒が自主的に話合いを進めているかを見守り、新しいループが書けなかったり、話合いの論点がずれていたりする場合は、必要に応じて指導や助言を行う。 ・ 学級目標を達成するための3つのモットー(行動目標)を振り返らせることで、話合いの視点を与える。 【※Ⅱ-2(1)】 ・ 改善策が学級のめざす姿に近づくための実践となっているかを確認させる。 【※Ⅱ-2(1)】 	◎ 本時の話合いの意義を理解し、進んで活動しようとしている。 ◎ 他の生徒の意見を尊重し、自分の意見を適切に表現している。 ◎ 自分たちの問題を自分たちで解決しようとしている。
活動のまとめ 10分	7 学んだことを振り返り、実践に向けての意欲をワークシートに記入する。(個) 8 教師の講話を聞き、活動を終える。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団決定した内容について、自己課題を設定するとともに、本時で何を学び、どう生かしたいかを振り返らせる。 【※Ⅱ-2(2), 2(3)】 ・ 学級目標を振り返らせ、生徒が集団決定した内容を意欲的に実践していくよう動機付けする。 	◎ 自分自身のこれまでの生活を振り返り、具体的な行動目標を考えている。

(3) 事後の活動と生徒の活動

期日	活動の場	指導上の留意点	めざす生徒の姿
随時	実際の生活 全員	本時の学びを実践させ、生活記録に振り返りをさせる。 【※Ⅱ-2(3)】	設定した自己課題の有用性を実感し、日々の生活で実践している。
随時	短学活等 全員	活動の過程を振り返らせ、評価シートに記入させる。	成果と課題を具体的に記入し、次の活動に生かしている。